

<b>B 1 2 1</b> (PC実習)	<b>製品設計のための特許調査 (化学)</b>
講座レベル ★★★	先行技術 (権利) 調査の基礎と自社製品との関係把握方法 自社開発品を上市するための対応策を理解する
講 師	弁理士 新井 規之 (ユアサハラ法律特許事務所、元住友化学㈱)
日程・場所	東京会場 11月20日 (金)
時 間	1日間 (10:00~16:00)
アクセス	<a href="https://www.jpds.co.jp/company/access/">https://www.jpds.co.jp/company/access/</a>
定 員	東京会場 14名 (先着順申し込み)
受講料	22,000円 (税込 24,200円)
対 象	化学分野の特許調査担当の初級者以上
<b>内 容</b>	
<p>化学分野における製品開発の初期段階では、製品設計に大きな影響を与える他社特許権の調査が必要不可欠です。これは、自社開発品と他社特許権との関係を正確に把握し、適切な実験データを収集することで、他社権利の抵触回避はもちろん、製品の差別化や有効な権利化を図るためにも極めて重要です。</p> <p>本講座では、化学分野における製品設計のための「特許調査」について、サーチャーと協働するための基本的事項から応用 (結果の活用等) までを経験豊富な講師が体系的に解説します。また、演習を通じて実践的な理解を深めていきます。</p> <p>知的財産部門や研究開発部門の方々を対象に、特許調査スキルの向上を目指しましょう!</p>	
<b>プログラム</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要</li> <li>2. 先行技術調査の種類</li> <li>3. 有機処理された無機化合物を製品化するための先行技術調査 ～実際に J-PlatPat を使用した説明～</li> <li>4. 演習：電子部品用組成物を製品化するための先行技術調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 受講者をグループに分け、各グループで J-PlatPat を使用して検索、文献抽出を行う</li> <li>➢ 対象発明と抽出された文献とを対比する</li> <li>➢ グループごとに以下を発表する <ol style="list-style-type: none"> <li>① 対象発明と抽出された文献との対比</li> <li>② 対象発明を製品化するための対策</li> </ol> </li> </ul> </li> <li>3. 他者の権利を無効にするための文献調査について</li> </ol>	

## 【お申込み】

当社ホームページよりお申し込みください。

URL: [https://www.jpds.co.jp/ip\\_seminar/schedule/](https://www.jpds.co.jp/ip_seminar/schedule/)

## 【備考】

- ・ 日本特許庁データベース (J-PlatPat) による調査演習を予定しております。(PCは弊社で用意いたします。)
- ・ セミナーご参加の方で事前にご質問や特に説明をお聞きになりたい内容がございましたらお申し下さい。セミナー当日に可能な限りお答えさせていただきます。

## 【日本弁理士会継続研修について】

本研修は、日本弁理士会の継続研修としての認定を申請中です。本研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として単位が認められる場合があります。